

★コロナ関連学校方向性ニュース

大阪府ら、臨時休業に対する対策として、生徒一人一人に対して、図書カードのクーポンが配布されることとなりました。配布の仕方は、校区内を地区ごとに分担し、家庭訪問して配布させていただきます。以下の家庭訪問マニュアルをよく読んで対応してください。

家庭訪問する日の電話連絡と家庭訪問時のマニュアル

- ①配布する当日に電話連絡して、連絡がついた方に、その日の午前10時から午後5時までの間に家庭訪問にて、図書カードのクーポン等を配布します。
- ②配布するのは、学校内の教員を地域別に分担して行うので、必ずしも所属学年教員が行くわけではありません。(実際はそのとき電話してきた先生が行きます。)
- ③生徒本人の顔を見て励ましたいので、対応はできたら生徒本人でお願いします。ただし、本人が難しい場合はご家族でも結構です。
- ④5時までに回り切れなかった場合は電話連絡します。
- ⑤急に予定が変更となったご家庭で、教員が訪問したときに留守の場合は、勝手に郵便受けに投函せずに後日配付します。
- ⑥ミマホルメのIDが学校に到着している方には、そのときに配布しますので最終の登録をお願いします。
- ⑦ウレタンマスクの生徒一人一枚への配布。(市内各中学校の生徒一人一人に、ウレタンマスクを寄付していただきました。マスクの色は白ではないのですが、この機会に配布しますのでご利用ください)
- ⑧3年生にはチャレンジテストの範囲についてのリーフレットの配布も行います。



★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

アブダビ日本人学校で勤務していた時に、石油会社勤務のある保護者がこう話されていました。「うちの会社には東大出身者はごろごろいます。でも、同じ東大出身者でも、仕事のできる人とできない人がいます。それは、その人が生きてきた中で苦労したり対応を迫られてきた経験の違いによることのように思います。だから私は、我が子には苦労をさせたいと思っています。学力ももちろん大事ですが、人間関係もそうですし、しんどいことから逃げないことや、人と一緒にプロジェクト進めていくような経験をたくさんさせたいです」とおっしゃっておられました。そういえば、その方のお子様は、アブダビ日本人学校の児童生徒から慕われ頼られていました。常に笑顔で、掃除など人の嫌がる仕事も率先して行い、勉強もスポーツも一生懸命で、誰に対しても親切でした。児童会の会長をしていて、砂漠キャンプ・学習発表会など様々な学校行事を自分たちで企画・運営していました。20年以上たった今、彼がどこでどうしているかもわかりませんが、きっと彼は自分の選んだ道で皆に認められながら頑張っている気がします。まさに、「かわいい子には旅をさせろ」「ライオンは自分の子を谷に突き落とす」ということわざにある通りです。

中学生という時期は、学力のすそ野を広げるときです。目先のテストの点数に気を取られて一喜一憂するのではなく、「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「表現する力」などの学びのすそ野を広げて下さい。すそ野が広がっていないと、高い山にはなりません。しかもそのすそ野は、誰かに広げてもらうのではなく、あなた自身が広げて下さい。すそ野を広げることができたなら、その上に自分で高くしていく力もできてくることでしょう。そういう意味で、今のこの機会は、ものすごいチャンスです。誰かからこういう勉強をしなさいとたくさん与えられるわけでもないからこそ、自分で考えて学べるからです。あなた自身の学びを工夫していきましょう。

学ぶことと同時に、社会活動もしていきましょう。たとえば、今あなたはこの状況の中で、家庭における役割を持っていますか？家事の分担(風呂の掃除・食事の後片付け・洗濯・掃除など)や弟や妹の世話など、あなたにもできることはあるかもしれませんね。まだ行動できていない人は、是非行動してください。家族に頼まれてからやるのではなく、あなたが考えて動く経験をして下さい。その経験が、きっと将来のあなたを助けることでしょう。



★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

アラブで観た子どもたち

毎朝、アラブの街を車で通勤していたのですが、交差点で信号待ちしていると、子どもが近寄ってきます。手に持った新聞の束を見せ、「買ってくれ」と言っているのです。一部 30 円ぐらいの英字新聞です。

映画館に行くと、映画の最中アラブの子が騒がしく飲み食いしている姿を見ます。映画が終わると、あたり一帯ポップコーンなどのごみが散らばっています。すると、騒いでいた子どもと同じ年ぐらいのアジア系の子どもがどこからか現れ、手にもったほうきや塵取りで手際よく掃除していきます。

魚スーク(魚市場)に行くと魚を選んでいると、私の真横に段ボール箱を頭の上に置いた少年が立っています。どうやら、私が買った魚を段ボール箱に入れろと言っています。彼は段ボールに入れた魚を私の車まで運んでくれる仕事をしているのです。

どの子どもたちも、小学校の高学年ぐらいの年齢です。多くはアジア人で、まじめに一生懸命笑顔で働いています。

私は自分の子ども時代を思い出しました。何不自由なく生活でき、当たり前にご飯が食べられて、住むところがあり、着るものもあり、学校に行くことができ、病気になれば病院にも連れて行ってもらえました。それなのに私は、わがままや不満を口いっぱいと言っていた気がします。あの時、私がアラブで見た子どもたちも今は 30 歳代。きっと今も世界のどこかでまじめに働いているのかなと思います。「今の自分に甘えず、仕事を頑張らないといけないな」と思います。世界のどこかで、今も大人に負けないぐらいに働いている子どもたちがいるのだから。



